

事業計画書

事業名	Open Data Labo
実施場所	沼津市内の文化財、各地区センターおよび沼津市立図書館など
実施予定期間	※イベントや研修会等の当日だけでなく、準備期間・実績の取りまとめ期間等も含めて記載して下さい。 2019年 4月 1日 ～ 2020年 3月 30日

◎事業概要

※事業の概要を 100～200 字で簡潔に記載して下さい（事業の紹介などで使用します）。

文化財をテーマにした Wikipediatown、防災や生活情報を地図で表現するマッピングパーティー、市のデータを利活用できるオープンデータワークショップなどを通じてデータは何かを知り自分たちでデータ作りをするワークショップ。

◎目的

※何を目的として実施する事業であるか（事業を行うきっかけ（地域の問題点や課題、社会背景など）や、課題解決のためにどんなことが必要と考えるか）を記載して下さい。

沼津市の人口は 2030 年には 17 万人程度にまで減少し、中でも生産年齢人口は 6 万 7 千人まで減ると予想されている。現在の市の状態をこの生産人口で維持する事は不可能であり、労働力を補うには IT の力が必須となっている。沼津市には情報通信業がわずか 1%しか無く、今後事業者の増加を行わなければ沼津市の稼ぐ力はより失われる事となる。市内起業者や沼津市を本店としてもらう IT 業を増やす為に市民自体が IT 力を身につける必要があり、それが出来ない場合でも受け入れる土壌を作る必要がある。そのための礎としてデータとは何かを知り、自分達で扱う事で正しい知識と利活用の方法をワークショップを通じて身につける。

◎実施内容

日 程	実施項目・作業項目
4～5 月	※イベントや研修会等の行事日程だけでなく、実施内容(打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会)、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、事業期間すべてにわたる実施内容を記載して下さい。 沼津市をデータで見るワークショップ#1 開催
6 月	WikipediaTown 沼津の開催
7～8 月	マッピングパーティーの開催
9～12 月	準備期間
1～2 月	沼津市をデータで見るワークショップ#2 開催
3 月	WikipediaTown の開催

◎事業効果

※事業の実施により、期待される効果を記載して下さい。

- ・ オープンガバナンスの推進
- ・ 沼津市の為にデータを整備する人が増える
- ・ 沼津市の状況を正しく判断するための情報が整備される
- ・ 郷土資料の活用
- ・ 文化財の現状をデジタルアーカイブとして保存する事ができる
- ・ 世代間交流の創造
- ・ 事業を横展開することで事例を学びにくる人が増える

<p>成果指標</p>	<p>※事業効果を客観的に評価できるよう、具体的な数値等を用いて成果指標を設定して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ WS 参加人数 ・ データが整備された件数 ・ 郷土資料貸出（閲覧）件数 ・ Wikipedia 記事作成数 ・ 参加者人数年齢 ・ 他地域からの参加数 	<p>指標の 検証方法</p>	<p>※左記指標の検証方法を記載して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者人数のカウント ・ データ整備数の調査 ・ 図書館へ貸し出し件数調査 ・ Wikipedia でのカウント ・ 参加者アンケート
-------------	---	---------------------	--

◎評価の視点に合致していることの説明 ※評価の視点については、募集の手引きを必ず確認して下さい。

<p>公益性 ・ 必要性</p>	<p>※公益性：地域のまちづくりの推進に如何に寄与できるのか、不特定多数の市民の利益にどうつながるのか等について記載して下さい。 ※必要性：事業を実施する意義や、本ファンドによる助成が有益で質の高い事業展開につながる理由を記載して下さい。 公益性：WS の内容や作成したデータを全てオープンデータにする事で全ての市民が閲覧・利活用する事ができる。 必要性：市民自体が IT 力を身につける必要があり、それが出来ない場合でも受け入れる土壌を作る必要がある。</p>
<p>地域性</p>	<p>※地域の実状と課題をどう捉え、事業を行うことによってどのように課題を解決するのか、また、地域の特性や地域資源をどのように活かしたか、などについて記載して下さい。 沼津市の情報を沼津市民が利活用することは他の地域ではできない。 また地域の文化財を取り扱い、図書館の郷土資料を利用することによって沼津市の特色を生かす事ができる。</p>
<p>先導性</p>	<p>※事業の新規性や独自性など、新たにチャレンジする点、工夫した点などについて記載して下さい。 市民に対してデータ利活用を推進している地域は静岡東部には裾野市だけだが、自治体が主体になっているので市民が自発的に行なっている取り組みはまだない。今やらないと他自治体から遅れてしまう。</p>
<p>発展性 ・ 継続性</p>	<p>※発展性：活動の広がりや波及効果がどのくらい見込め、地域の発展・活性化につながるのか記載して下さい。 ※継続性：本ファンドによる助成終了後も継続的・自立的な活動とするために、事業実施体制や活動資金の確保などについて記載して下さい。 発展性：公開された活動内容から自分たちの自治体でもデータ利活用をしたいという市民が事例を学びにくる事が考えられる。 継続性：ワークショップの内容を覚えるものが増えれば、主な活動資金である講師への出費がなくなるため事業費自体がかからなくなる。</p>
<p>実現性 ・ 妥当性</p>	<p>※実現性：事業目的と事業内容は合致しているか、実現のために事業内容、予算の積算、自己資金の準備、スケジュール等について工夫した点を記載して下さい。 ※妥当性：各種法令順守、関係者との調整状況、費用に対する事業効果の妥当性について記載して下さい。 実現性：実行メンバーの多忙さを配慮し、ワークショップの回数を少なめに見積もった。 妥当性：すでに他の自治体でデータ利活用研修をしているメンバーを中心に展開するので、ワークショップの対象が変更しても実現可能である。</p>

<p>活動に対する熱意</p>	<p>※活動の動機、活動に対する意欲・熱意について記載して下さい。 Wikipediatown の開催回数は日本で一番多いです。このワークショップを開催する事で沼津市民の情報リテラシーの低さが少しでも改善できるよう尽力します。</p>
-----------------	--

◎次年度以降の活動予定

<p>※ソフト部門（ステップアップ型）新規または2回目の応募で、助成の継続（最大3年まで）を希望する場合は、今後の活動予定と事業継続のための戦略について記載して下さい（今回の応募が次年度以降の助成を約束するものではありません）。</p> <p>今後は沼津市だけではなく他の自治体と連携して、他との比較や広域で見るデータ利活用をできるように展開していく。</p>
--

◎実績の評価と改善点（継続事業のみ）

<p>※継続事業については、過去の実績に対する自己評価と実績を踏まえた改善点等について記載して下さい。</p> <p>自己評価：回数を多くし、アウトリーチで発信する事で沼津市のウィキペディアタウンの注目度が全国の図書館司書に広がり参加者として事例を学びにくる人が増えた。</p> <p>ウィキペディアタウンの全国的な集まりでも知名度があり、活動効果は上がっていると考えられる。</p> <p>改善点：他市からの参加者は増えたが、沼津市民の参加者が減ってしまった。告知方法や他団体との連携が必要かもしれない。</p>

◎特に高い公益性を有することの説明（ハード部門のみ）

<p>※補助金申請額が「特に公益性が高い事業」に該当する場合は、その理由を記載して下さい。</p>
